

創立100周年 飛躍年にしよう！

母校は創立100周年を迎え、秋には記念式典・祝賀会が控えています
各界でご活躍の卒業生に学生時代の思い出などを綴っていただけます
創立100周年の機運を高めたいと思います
往時を懐かしく思い出し、またこれからのお住まいの飛躍に思いを馳せ
創立100周年と一緒に祝いましょう！

● 主体性の確立

木下 千代(高27期)

音楽の道を志すなら、住高は自由な校風で楽だよ、と勧められて進学しました。入学当初、生徒会長から「高校生活とは主体性の確立だ！」といわれ驚きました。私たちのころは学生運動もすっかり下火となり、これでいいのか、と思うほどのんびりとした高校生活で、昼休みはテネシーワルツ、学園祭は大盛り上がり、しかし楽しさの中で各自が自分のやりたいことを自由に求めている風潮がありました。数学が苦手で赤点ばかりの私に先生は「どこ受けるんや」(当時唯一数学のない国立だった)「芸大です」「おお、頑張れよ！」と、叱ることなく私の夢を応援してくださったように、自主性を越えたほんとうの主体性を育てる住高の教育方針は、現在のアクティブラーニングに通じるものがあり、自身の長い教育者人生の中にも息づいていたと感じています。

27期は様々なグループでしおりゅう集まっています。「ピアノ弾き飲み会」というのもあるんですよ。はじめて会う人でも、同じ釜の飯を食った、というだけですぐ親しめるのは不思議な感覚ですね。年を取るとともに、住高の友人たちの素晴らしさをしみじみと噛みしめています。



きのしたちよ：兵庫教育大学名誉教授、ピアニスト／東京藝術大学大学院修了。ワルシャワ、サレツブルグなどで研鑽を積む。リサイタルをはじめオーケストラとの共演、室内楽などで活躍中。作陽音楽大学、相愛大学、大阪教育大学などでも教鞭をとる。日本ショパン協会理事、日本ピアノ教育連盟運営委員、住高同窓会音楽家連盟会員。

● 今の自分を作ってくれた場所 ヤナギブソン(高46期)

自由な校風に魅力を感じて入学し、実際に自由な時間を過ごさせてもらいました。

夜中に友達3人で屋上に忍び込み、ギターを弾きながら尾崎 豊を熱唱した15歳。

授業中、机の四隅にローソクを立て、真ん中にでかいメロンを置いて1時間呪文を唱え、それが面白いと思っていた16歳。

文化祭でコントをやり「笑い声」という名のドラッグ中毒になり、同時にパンクバンドも組んでライブハウスのマイクをぶち壊したら店の人にブチギレられシュンとなりパンクは向いてないと悟り、お笑い一本に決めた17歳。

自由を獲得するための代償は将来への覚悟で支払いました。

「疾風勁草」という言葉がありますが、高校生の時に出来上がった自由な価値観はまだしっかりと根を下ろし、26年間芸人を続けています。そんな私に、水と太陽をあたえて遊ばせてくれた住吉高校、ありがとうございます。

100周年おめでとうございます。



やなぎぶそん (柳谷 学/やなぎたに まなぶ)：お笑いタレント／1996年 NSC 大阪校に17期生として入学。2002年『ザ・プラン9』に加入。第34回NHK上方漫才コンテスト(2004年)優秀賞受賞。M-1グランプリ(2006年)決勝進出。R-1ぐらんぷり決勝に3度進出。現在、『かんさい情報ネットten』(読売テレビ)の「とことん満足！おでかけコンシェルジュ(火曜)リポーター』、『あさパラS』(読売テレビ)に月1レギュラーとして出演中。

● 自分の原点を培った高校生活

石田 雅章(高36期)

当時の住吉高校の校則は、「本校は制服制帽を一切定めない。全て生徒の自主性に任せる」だけではなかったかと記憶しています。制服制帽のみならず、3年間を通して、宿題や課題提出など、ほとんどありませんでした。授業は各先生の個性に委ねられており、数学の授業などはチョーク1本で、新たな世界を開く魔法を見せられている気分でした。化学があまりにできず、大学は文系に進みました。大学時代に演劇に関わるようになり、なんだかんだで30年以上続きました。国内や海外の演劇祭の舞台に立たせていただく機会もありました。30歳で英語教師になってから、一旦教職を辞し、大学院博士課程でパリに留学し、サミュエル・ベケット(アイルランドの劇作家)を研究しようとしたが、結局中退して、教壇に戻りました。

住高時代から数学に対する憧れは続いている、英語教師をしながら、50歳を越えて中高数学教員免許を取得しました。こうして振り返ると随分とつ散らかった人生ですが、人生の行動選択の際には、住高で培った「自由」の精神があるように感じます。自分の人生を歩むということ、決して他者の価値観で判断しないこと、住高の3年間で学んだことは、これに尽きます。100周年おめでとうございます。



いしだまさあき：大阪府立高校 英語科教諭／大阪外国语大学ウルドー語学科卒。名古屋学院大学大学院 英語学専攻修士課程修了。日本大学大学院博士課程中退。2006年-07年 日仏共同博士課程派遣留学生としてパリ第7大学留学。私立高校9校勤務後、50歳の時、大阪府に採用となる。剣道部OB。

● 英語に多く触れる刺激と学び 河内屋 凜乃(高68期)

入学式初日、住吉高校の自由で華やかな雰囲気に「ドラマの世界みたい」と、大きなワクワクと少しの不安を覚えたことを今でもよく覚えています。国際文化科ということもあり、ホームステイの受け入れ、留学、TOEICやTOEFL講座の受講など、英語に関わるたくさんの経験をさせていただきました。そのため、英語を学びたい！と思い、わざわざ学区外の住高を選んだ私にとっては、刺激的でありがたすぎる環境でした。

たくさんの経験をさせていただいた3年間。その中でも特に、同窓会支援によるケンブリッジ研修は私の考え方を深め、広げてくれた貴重な経験となりました。年齢・性別・職種・国籍問わず、自分自身の夢の実現と社会貢献のために英語を勉強する留学先のクラスメイト。英語を学ぼう！とだけ意気込んで行った私にとっては、とても衝撃的だったことを今でも鮮明に覚えています。一方で、自分の人生と社会に対する責任を持ち、いくつになってしまっても学びを怠らない姿勢に、私もそんな生き方をしていきたいと、強く思うきっかけになりました。

多くの機会を与えてくれた住高での3年間は私の宝物です。



かわちやりんの：住吉高校 国際文化科卒。第2回ケンブリッジ研修生。2021年同志社大学 法学部政治学科卒業後、株式会社リンクアンドモチベーション入社。中小・ベンチャー企業を中心に組織人事領域全般のコンサルティング業務に従事。